

本村におけるごみ問題に関する意見書（中間報告）

1 経緯

近年、村内において顕在化している問題の一つとして「ごみ問題」が挙げられます。特に高齢者のごみ個別収集、ごみステーションの管理のあり方、またこれらに付随する自治会の加入率減少などが問題となっております。ごみ問題については、『第2次東海村環境基本計画』の「快適な暮らし」―「環境美化と次世代に引き継ぐコミュニティ（美化活動推進、不法投棄の撲滅）（ごみ置き場、ごみ出し、自治会加入）」に位置付けがされており、とうかい環境村民会議生活環境部会においても、このように生活に密着した課題が多いごみ問題について、平成27年度の優先順位第1位の施策として取り組んできたところです。

その取組内容の一つとして、環境政策課ごみゼロ推進室の担当者の話を聞く研修会やごみ問題に関する協議などを行いました。結果的に部会として以下の2点について実施することとしました。

- (1) ごみ問題に関する具体的な問題点を把握するため、とうかい環境村民会議会員を対象としたアンケート調査を実施する。
- (2) アンケート調査の結果を受けて、その中身（特にアンケート中13～15の自由意見部分）について精査し、意見書として環境政策課ごみゼロ推進室に報告する。

なお、平成27年度については、アンケートの分析から明らかになった事象、また生活環境部会において提案された意見等について中間報告としてとりまとめ、環境政策課ごみゼロ推進室あて報告するものです。平成28年度に個別の具体的な案件等について検討を重ね、改めて意見書を作成し報告を行いたいと考えております。

2 アンケート調査の結果

- (1) アンケート結果
 - ・ 回答数 22（とうかい環境村民会議会員の他、食生活改善推進員数名）
 - ・ 詳細については、別添『生活環境部会 ごみ問題に関するアンケート結果』を参照してください。
- (2) 分析結果
 - ① 「1 年齢」～「6 同居家族人数」について

- ・回答者のうち60代以上の方が75%以上を占めており、それと連動して東海村に31年以上在住している方が75%を占めている。
- ・回答者の大半が高齢者で、戸建ての持ち家に住んでいて、かつ在住年数が長いことが、自治会加入率の高さに繋がっている。また、同居人数が比較的少ないことも、回答者の年代に起因するものである。

②「7 生ごみの処理方法」～「10 資源物の処理方法」について

- ・粗大ごみ、資源物については、清掃センターに持ち込む方が少数存在するものの、地域のごみステーションを利用している方が大半を占めている。

③「11 ごみステーションの場所」について

- ・近いと感じている方が75%を占めており、場所については概ね適正であるといえる。

④「12 希望する村のごみ収集の頻度」について

- ・燃えるごみ、燃えないごみについては、現行のままでよいとする意見が多いものの、粗大ごみについては月1回、資源物については週1回が望ましいとする声も多い。

⑤「ごみ問題で困っていることがあれば記入」～「その他ごみ問題について要望等があれば記入」について

- ・具体的なごみ問題に対する提案、要望が寄せられている。これらに対する部会の意見については、次項で記述する。

3 生活環境部会としての意見、提案等

アンケートにおいて多数の意見があった「ごみステーション設置場所の確保」、「高齢化による問題（ごみステーションが遠い、当番ができない⇒常会脱会＝自治会脱会）」については、生活環境部会においても議論したところであり、部会としてごみ問題を取り上げるきっかけとなった事象です。このような意見を踏まえ、生活環境部会において検討をおこないましたが、その際に出された意見、提案については以下のとおりです。

《ごみステーションについて》

- ・ごみステーションの設置場所の確保については、公共施設の活用など弾力的な運用が必要であると考えます。

- ・ごみステーションの適正な配置について、調査研究をすべきであるとする。
- ・ごみステーションの管理については、通勤途中と思われる者などポイ捨てが見られる、ごみの分別ができていない、指定の日時に捨てていないとの意見が寄せられており、改めてごみの捨て方に関する啓発が必要であるとする。
- ・村内の一部の常会では、ごみステーションに鍵を設け、ポイ捨てや指定の日時以外のごみ捨てを未然に防いでいる事例がある。
- ・共働きであるため、資源当番の度に会社を休まなければならず負担に感じている方がいる。地域の元気な高齢者の皆さんの力を活用してはどうか。
- ・高齢者に実施している個別収集について、若年層にまで拡大し、有料化してはどうか。ごみステーションの管理に起因する自治会の脱会も回避できるメリットがある。
- ・アパートに設置してあるごみステーションについて、近隣の人々が使えるようになれば（もちろん有料化）、ごみステーションまでの道のりが遠い人々の対策にもなる。

《ごみの減量化について》

- ・生活環境部会としては、ごみの減量化を図るため水切りや3Rの周知に取り組んでいきたい。
- ・できるだけごみが発生しないような生活（不要なものを買わないなど）に心がけるなどライフスタイルの変革について啓発が必要であるとする。
- ・ごみが増えれば、それを処分するコストが増えていくことをグラフで分かりやすく説明する必要がある。ごみ減量化により、浮いた財源については、子育て支援や福祉に回す提言ができれば、ごみ減量化の効果があるのではないかと。